

7月16日火まで

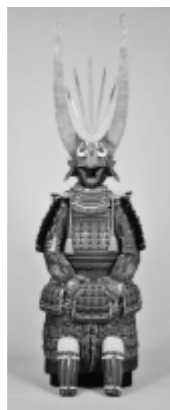
「井伊直弼 - 親しき人への手紙 -」

若き日の井伊直弼は、親しく付き合い、信頼を置いた人に宛てた手紙で、自らの喜怒哀楽の感情を率直に書き綴っています。これらの手紙を読み解き、直弼の人物像に迫ります。

7月19日(金)~8月20日(火)

「武具の意匠  
- 武士の願いと祈り -」

武具にあしらわれた文様は多種多様です。中には、軍配(ぐんぱい)や勝利をもたらす動物など戦に関わる意匠(いしょう)もあれば、「尚武(しょうぶ)と菖蒲(しょうぶ)」のように言葉の読みを掛けたものもあります。武具の意匠を通して、武士がどのようなものを好み、そこにどのような願いを込めたのか読み解きます。



朱漆塗糸織延腰取一枚胸具足

▶ギャラリートーク

7月20日(土) 11:00~11:30、14:00~14:30  
事前申込: 不要 場所: 展示室1 ※観覧料が必要

常設展示「ほんものとの出会い」では、譜代大名筆頭・井伊家に伝来した名宝を中心に展示を行っています。

ほんものとの出会い

8月20日(火)まで  
短刀 銘 来国俊

鎌倉時代後期に山城国(現京都府)で活躍した刀工・来国俊が制作した短刀。元から先まで緊張感のある細直刃(ほそすくは)が乱れることなく続き、鋒(きっさき)で品良くまとまった弧(こ)を描くなど、国俊の特徴がよく表れた1口(ふり)です。



短刀 銘 来国俊

■7月16日(火)~同18日(木)は、展示替えのため一部休室します。

チケット情報

ひこね市文化プラザ

11月3日(日) 14:00 グランドホール

ひこね市民大学特別講座  
夏井いつき 句会ライブ

【7月7日(日) 9:00~予約開始】  
一般 1,200円  
高齢者・障がい者・学生 1,100円  
【発売中】友の会 1,000円

人気俳句番組「プレバト!!」でおなじみの辛口先生が彦根にやってくる!  
「俳句なんて絶対作れない」と思っているあなたに、5分で一句作れる魔法の技を伝授します。小学生から大人まで、たくさんの人たちと一緒に俳句を楽しむための新しい句会の形「句会ライブ」に、ぜひご参加ください!



小学生以上 託児あり(有料・要予約)

申込・お問い合わせ先 チケットセンター  
☎27-5200 (9:00~19:00)  
インターネットでも購入いただけます。https://bunpla.jp/

7月の休館日 1日(月)、8日(月)、16日(火)、22日(月)、29日(月)

【ひこね市文化プラザ各公演 発売初日の予約の取り扱い】  
※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。  
※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。

みずほ文化センター

8月10日(土) 18:00 練習室

彦根亭 みずほ寄席 VOL.32 夏の章【笑】

自由 【発売中】前売 500円 当日 600円

恒例! おかげさまで人気のみずほ寄席。落語家や漫才師が、いっぱいのお笑いをお届けします。【出演:よふかしエロー、天然もろこし、桂咲之輔、笑福亭学光】

小学生以上 託児あり(有料・要予約)

9月28日(土) 14:00 多目的ホール

お楽しみステージ♪松原のぶえコンサート

【7月21日(日) 9:00~電話予約、13:00~電話・窓口予約】  
前売 2,500円 当日 3,000円  
【7月15日(月・祝) 9:00~電話予約、13:00~電話・窓口予約】  
〈彦根市民先行〉前売 2,500円

安定した歌唱力を誇り、多くのファンを魅了し続ける女性演歌歌手を代表する実力派歌手の1人。歌手生活40周年を迎えた松原のぶえがみずほ文化センターにやってくる。新日のヒット曲満載のコンサートをぜひお楽しみください。



小学生以上 託児あり(有料・要予約) ※チケットの引き取りはみずほ文化センター窓口のみ。身分証明書提示要。

申込・お問い合わせ先 みずほ文化センター  
☎43-8111 (9:00~17:00)

7月の休館日 2日(火)、9日(火)、16日(火)、23日(火)、30日(火)

◎入場制限のある公演は託児サービスを実施します(子ども1人1,000円)。事前予約が必要です。  
◎表記の価格は全て税込価格です。  
◎高齢者・障がい者・学生のチケットはひこね市文化プラザチケットセンターのみの取扱。身分証明書提示要。

江戸時代の火災対策 - 彦根城下・伝馬町の場合 -

とよきの玉手箱

博物館からのメッセージ

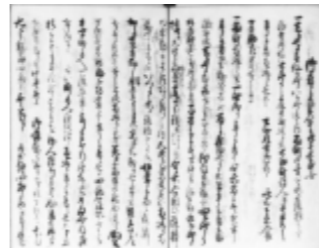


第275回

身近な災害の一つに火災があります。江戸時代の江戸は、火事の多さから「火事と喧嘩は江戸の華」と表現されることもありましたが、火事が多いことは江戸に限った話ではなく、彦根でも問題になっていました。

そこで今回は、約200年前の江戸時代に、彦根城下で日頃どのような火災対策が講じられていたのかを、伝馬町(現在の中央町の一部)を事例に紹介します。

伝馬町の町役人が町奉行所(彦根城下の統括機関)へ提出した書類を写しまとめた「諸事願書留帳」という史料があります(写真)。この中には文政2年(1819)に町奉行配下の役人が伝馬町ほか七町へ命じた火災対策が記録されています。ここでは、以前に準備を命じた水溜(水を運ぶ容器・水籠(水の入った容器を軒先につるす籠・替釣瓶などが指示通りに準備されているかを確認した上で、各家に



諸事願書留帳(部分)

ある水溜の数を町ごとに報告するようになり申付けています。迅速に消火するための諸道具を、こうして周到に準備させるのは、火災への強い警戒の表れといえます。

これに加えて、町内の夜廻りも怠りなく行うように伝えてあります。夜廻りには、防犯上の目的もありましたが、火災の発生・拡大を未然に防ぐ意図も含まれていました。その様子、伝馬町で起こったとある事件から見てみましょう。

天保7年(1836)6月7日、夜廻り当番だった伝馬町の基平は、召使の善弥を代わりに遣わしました。午後10時~午前0時の夜廻りを終えた善弥は、次の当番である久次郎の家へ行き、戸口で久次郎を呼び起こしてから、夜廻り道具の鉄棒を火方会所(夜廻りの話所)の入口へ置いて帰りました。その後久次郎が夜廻りのため会所へ鉄棒を取りに行く

と、入口付近にあるはずの鉄棒がなく、仕方なく予備の鉄棒を亭主番(火方会所に詰める人)に出してもらい、夜廻りを務めたのでした。

この鉄棒の紛失を町奉行所へ届け出たところ、町奉行所は、夜廻りの交代を適切に行わなかったこと、当番の基平が自身で務めを果たさなかったことを挙げ、町役人と当事者の基平らを厳しく叱責する、という事態になりました。

まずこの事件からは、火方会所が町内の夜廻りの拠点であったこと、夜廻りに必要な道具を備えていたことが分かります。また、夜廻りが火災対策の一環であったことを踏まえると、ここで登場する鉄棒は護身用であるとともに、火災発生時に使う道具でもあったと考えられます。

江戸時代の火災において、まず懸念されたのは延焼でした。そのため、当時は放水による消火に加え、火元周辺の建物を破壊して類焼を防ぐ破壊消防がしばしば行われ、鉄棒もそこで活用されたものと思われる。

また、夜廻りの具体的な務め方もうかがうことができます。伝馬町内で同時期に取り決めた掟書(町中引摺吟味控)と一緒に見てみると、夜廻りは1人当たり2時間の間に3回町内を見廻ること、町内に住む人たちが順番で担ったことが分かります。しかし実際には、今回の善弥のように、当番が代人を遣わすこともありましたが、

このように江戸時代の伝馬町では、夜廻りの務め方が問題になることもありましたが、日頃から火災対策を協力して行っていました。夏は火災が比較的少ない季節ですが、こうした江戸時代の防災意識を心に留めておいてはいかがでしょうか。

【彦根城博物館学芸員 北野智也】

写真の古文書は、常設展示「古文書が語る世界」で、7月17日(水)から9月23日(月・祝)まで展示します(9月17日(火)は休館)。

※【お詫びと訂正】広報ひこね6月1日号「とよきの玉手箱」が「第275回」となっていました。正しくは「第274回」でした。お詫びして訂正します。